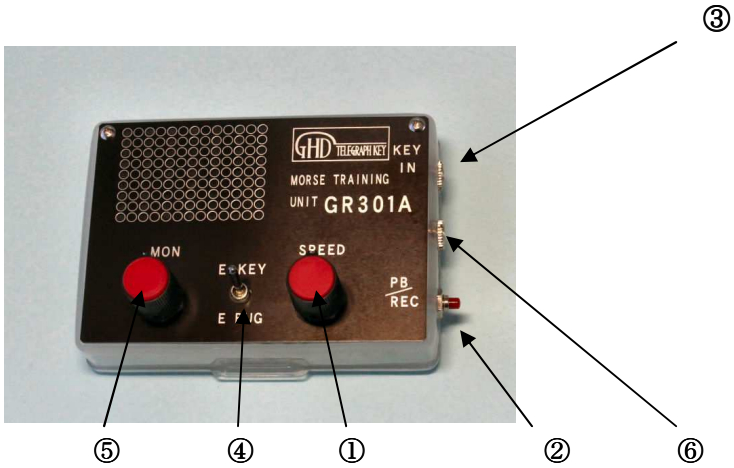
モールス練習機　取扱説明書

Rev2023.10.11

この度はモールス練習機 GR301A/er を御買い上げ戴き誠に有難う御座いました



1　接続及び操作方法の概要

1　**エレキー**の場合は**付属のコード**の網線(アース)をキーのアースに、赤を短点端子に白を長点端子に接続します、コードのプラグを　KEY IN　③に差します

2　**モードスイッチ④**　を　**エレキー**として使う時は E KEY　側にします、エレバグ(注)として　使う時は　E BUG　側にします

3　**縦振りキー**(バグキーや複式キー等)の場合は**付属のコード**の網線(アース)をキーのアースに　コードの白をキーの出力端子に繋ぎます(赤は使いません)
モードスイッチ④を　E BUG　側にします

4　音量は⑤の**ツマミ**で合わせます

5　①のツマミは　エレキーの時のスピード調整です
(エレバグの時は短点のスピード調整です)

6　**スイッチ②**は　記録　再生の時に押します

エレバグについて

(注)エレバグはエレキー用パドルでバグキー風の符号が手軽に出せます、長点はパドルを押している間だけ、任意の長さで出し、短点やスペースを所定の長さに調節します。599や、VAなどで、少し長めの長点を打って、気分のこもった信号が出せます、しかもスペーシングが回路で整えられるため、普通のセミオートの符合より聞き易い符号が打てます。
尚　エレキーは通称で正式にはエレクトロニックキーヤーと言います

2　特徴

①　**E KEY**(エレキー) , **E BUG**(エレバグ)　の 2 モードで動作します

②　**エレバグモード**では、長点が、任意の長さで出せます
(　縦振れキーの場合このモードの長点側を使います)
短点の長さと、マーク間のスペースは、規定の長さに揃えられます
これにより、エレキーの気軽さで、バグキーライクな符号が打ち出せます

③　**エレキー**のモードで記録できるメッセージメモリーを1チャンネル搭載しています
(エレバグモードでの記録も出来ますが記録時と再生時は同じ符号にならずエレキー風の符号になります、 縦振りキー等の符号は記録出来ません)

④　メッセージメモリーは不揮発です、電池交換をしても内容が消えません

⑤　**モード切り替え**はスイッチにより、パネル面で位置を確認できます
また、メッセージの記録、再生とも、操作は簡単です
(モード切替時はﾊﾟﾄﾞﾙ操作をしないで下さい)

⑥　単四電池2本で動作します(電池は出荷時装着しています、交換時は市販の**単四アルカリ電池**をお使い下さい、消費電流は音量最大時　約 1mA です)

⑦　スピーカーによる**モニター音**付です

⑧　オートスリープ機能の為**電源スイッチレス**です

3 使い方

3.1 準 備

まず電池が正しく装着されているかを確認します、電池は**単四**が2本です、交換時は　電池の向きに注意します。
次ぎに、パドルに付属のプラグ付のコードを繋ぎ前面の**キーIN 端子③**に差し込みます。
SPEED（スピード）と**MON**（モニター）つまみは、中央に合わせておきます。

3.2 E KEY(エレキー)モードでのオペレーション

モード切り替えスイッチを　**E KEY** 側にします。
キーの長点側を押せば長点、短点側を押せば短点、両方を同時に押せば、長短点が交互に出ます、この事をスクイズ操作と言います、弊社ホームページでスクイズ操作の解説や動画による説明もしています
(通常の右手操作の場合親指が短点、人差し指が長点となります)
モニターの音量をツマミで合わせ、スピードツマミで、好みのスピードに合わせます。

3.3 エレバグモードでのオペレーション

モード切り替えスイッチを**E　BUG** にします。これで**エレバグモード**の動作になります。
長点パドルを長く押し、**長ーい長点**が出る事を確認します。長点は任意長で、短点とスペースは自動で整えられます。
長点と短点の間のスペース、長点同士の間のスペースとも、パドル操作が短すぎても、きれいに調整された信号が出ます。
色々な符号を打ってみます。信号はスペースが整えられ、補正動作がスムーズに得られていることがわかります。（ただし、短点より長いスペースは補正できません。）

3.4　縦振りキー(バグキーや複式キー)でのオペレーション

モード切り換えスイッチを **E BUG** にします、キーとの接続方法は一番最初の**接続及び操作方法の概要を** ご覧下さい

●スピード調整のツマミは右いっぱい(MAX)にします

4 メッセージメモリーの使い方

4.1 メモリーチャンネル

メモリーは1チャンネルです、 ②の **PB/REC** スイッチを用いて操作します。

4.2 メッセージの記録

モードスイッチを **E KEY** にします (**E BUG** モードでは正常に記録出来ません)

符号を記録する場合は、**PB/REC** スイッチを2秒ほど長押しします。

すると、モニターから“R”が聞こえるので、聞こえているうちに手を離してください。

するとさらに、“BT“が聞こえます。RとBTは、普通、違ったスピードで聞こえます。

BTのスピードが、現在のスピード設定つまみの位置によるものです。

BTの後、パドルを操作してメモリーに符号を入力します。

記録が終わったら、すぐに **PB/REC** スイッチを押してください。

すると、キーヤーは“AR”をモニターから出して、記録を終了します。

メモリーが一杯になると、キーヤーは勝手に“AR”を出して記録を終了します。

4.3 メッセージの削除

記録をキャンセルしたい場合は、BTのあと、何も入力しないで **PB/REC** スイッチを押します。

キーヤーは、“T“の音を出して、そのチャンネルのメモリーをキャンセルします。

入力で間違った場合は、プッシュスイッチを押して記録を一旦終了し、上記の操作でキャンセルするか、上書きします。

4.4 メッセージの再生

メモリーを再生するには、**PB/REC** スイッチを短く押します。

スイッチを離したら、すぐに再生が始まります。

途中で止めるときには、長点パドルを押します。

再生しようとした、メモリーが空の場合は、キーヤーは“T”をモニターから出すだけです。

4.5 メッセージメモリーの容量

およそ1000個の長点、短点またはスペースが記録されます。

これは文字数にして、約250字です。

- デザイン、色やパーツが変更になる事があります
- 基盤を取り外さないで下さい、分解すると初期の性能が発揮出来なくなります
- 長い間使わない時は電池を外してください、電池は液漏れする事が有ります年に **1** 度は電池交換をして下さい
- イヤホンを使用する時はイヤホンのプラグを写真の⑥に差し込んで下さい、**CW** 解読器と接続し、送信符号の解読をする事が出来ます
  (イヤホンプラグを差し込むとスピーカーの音は出なくなります)
- リグとの接続はできません

株式会社 GHD キー

〒981-3326 宮城県黒川郡富谷町明石字下向田 24-14

Tel 022-779-0681 Fax 022-779-0682